

oricon

2012年3月期決算説明会

2012年5月9日

2012年3月期決算の概要

■スマートフォン対応を積極的に推進

スマートフォン(Android携帯電話)向け音楽配信 ⇒ サービスの拡充に伴い売上が着実に増加
「オリコンアプリランキング」の取り組み ⇒ 広告単価の交渉が難航し、低調な状況で推移

■市場全体の縮小の影響を受け、フィーチャーフォン向けコンテンツ配信サービスの収益が減少

着うたフルの売上 ⇒ 前年同期と比べ、上期は微増、下期は減少

■顧客満足度(CS)ランキング連動型広告の事業が堅調に推移

検索結果の上位表示を獲得していることが安定的に収益を伸ばしている要因の一つ
CSランキング掲載ページの広告枠とコンテンツの再構築に着手

平成24年2月より、一部のジャンルで「資料請求サービス」「見積りサービス」の機能を追加

■今期(平成24年3月期)より税金費用が法定実効税率並みに

当期純利益の減少率が経常利益の減少率を上回った

2012年3月期連結業績

売上高	6,408百万円(前期比 5.6%減)
営業利益	947百万円(前期比22.5%減)
経常利益	871百万円(前期比24.0%減)
当期純利益	466百万円(前期比41.4%減)

連結損益計算書



(単位: 百万円)	2011年3月期	2012年3月期	増減	
			金額	増減率
売上高	6,790 (100%)	6,408 (100%)	▲381	▲5.6%
売上原価	3,919 (57.7%)	3,748 (58.5%)	▲170	▲4.4%
差引売上総利益	2,871 (42.3%)	2,660 (41.5%)	▲211	▲7.4%
販管費	1,648 (24.3%)	1,712 (26.7%)	63	3.9%
営業利益	1,222 (18.0%)	947 (14.8%)	▲275	▲22.5%
経常利益	1,146 (16.9%)	871 (13.6%)	▲275	▲24.0%
税金等調整前 当期純利益	1,109 (16.3%)	826 (12.9%)	▲282	▲25.5%
当期純利益	796 (11.7%)	466 (7.3%)	▲329	▲41.4%

主な増収要因

- ・スマートフォン向け音楽配信[130百万円増]
- ・顧客満足度(CS)ランキング連動型広告
[73百万円増(18.2%増)]
- ・データサービス事業[54百万円増(8.3%増)]

主な減収要因

- ・着うたフル(フィーチャーフォン向け)[281百万円減(10.9%減)]
- ・着うた(フィーチャーフォン向け)[134百万円減(27.3%減)]
- ・着メロ(フィーチャーフォン向け)[101百万円減(22.5%減)]
- ・雑誌事業[15百万円(1.1%減)]

スマートフォン対応などの先行投資に伴って人員が増加し、労務費(売上原価)及び人件費(販管費)が60百万円増加。一方、モバイル事業の売上減少に伴い、音源使用料(売上原価)が227百万円減少。

特別損失として、投資有価証券売却損26百万円、災害による損失10百万円を計上。

前年同期には税効果会計の適用により、税務上発生した繰越欠損金が税金費用を抑えていたが、前連結会計年度末で課税所得と相殺可能な繰越欠損金がなくなり、今期においては税金費用が、法定実効税率並みになり、前年同期と比べ、65百万円増加。

セグメント別売上高



(単位: 百万円)			2011年3月期	2012年3月期	増減	
					金額	増減率
WEB事業			1,042	1,011	▲31	▲3.0%
	広告	CSランキング連動型広告	401	474	73	18.2%
		その他の広告商品	518	428	▲90	▲17.4%
	コンテンツ		123	109	▲14	▲11.4%
モバイル事業			3,660	3,259	▲401	▲11.0%
	フィーチャーフォン向け	着メロ	450	348	▲101	▲22.5%
		着うた	493	358	▲134	▲27.3%
		着うたフル	2,570	2,289	▲281	▲10.9%
		情報系	146	120	▲26	▲17.8%
	スマートフォン向け音楽配信		1	131	130	—
	その他		0	12	12	—
雑誌事業			1,433	1,417	▲15	▲1.1%
データサービス事業			647	701	54	8.3%
その他の事業			7	19	12	183.8%
売上合計			6,790	6,408	▲381	▲5.6%

※百万円未満を切捨てて表示しております。

期初通期業績予想値と実績値との差異



(単位: 百万円)	期初予想数値[A] (2011年5月9日)	実績値[B]	差異[B-A]	達成率[B/A]
売上高	7,060	6,408	▲652	90.8%
営業利益	1,250	947	▲303	75.8%
経常利益	1,160	871	▲289	75.1%
当期純利益	660	466	▲194	70.6%

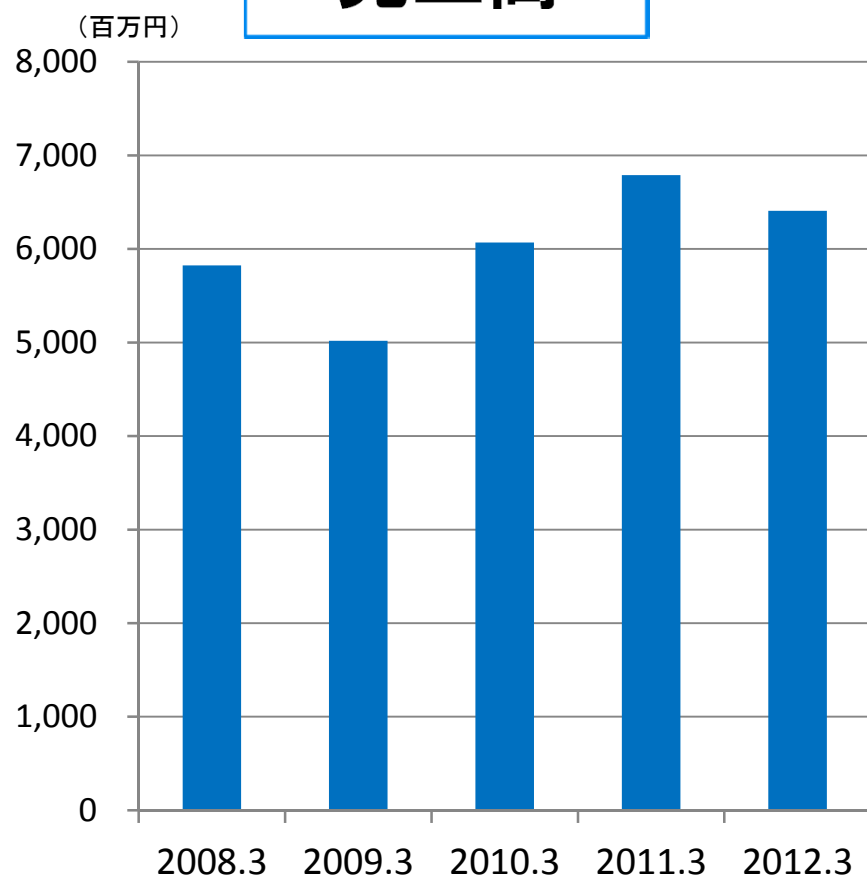
差異が生じた主な要因

- ・フィーチャーフォン向け着うたフルが、下期に入り、市場縮小の影響を期初の想定より大きく受けるようになり、通期の売上高が期初の計画を下回った。
- ・Android携帯電話向け音楽配信の月次の売上高は着実に伸びたが、通期の売上高は期初の計画に達しなかった。
- ・スマートフォン向けにおける広告商品の販売が、広告クライアントとの単価交渉が難航するなどして低調な状況で推移し、期初の計画を下回った。

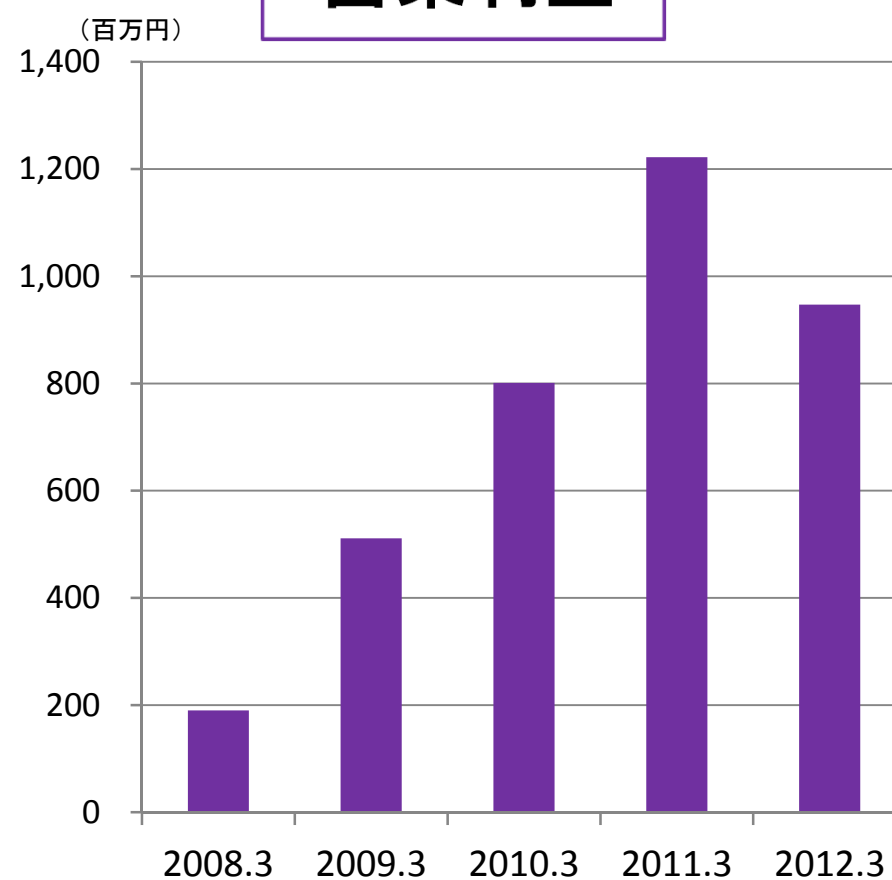
連結業績の推移



売上高



営業利益



連結貸借対照表



(単位:百万円)		2011年3月期末	2012年3月期末	増減
資産合計		5,060	4,552	▲508
	流動資産	2,802	2,623	▲178
	有形固定資産	315	139	▲176
	無形固定資産	1,006	1,042	36
	投資その他の資産	929	742	▲187
	繰延資産	6	4	▲1
負債合計		2,890	2,622	▲268
	流動負債	1,793	1,823	29
	固定負債	1,097	799	▲297
純資産合計		2,169	1,929	▲239
	株主資本	1,865	1,929	64
	その他の包括利益累計額	▲17	▲19	▲1
	新株予約権	▲5	18	24
	少数株主持分	326	—	▲326

- 総資産は508百万円減少。現金及び預金は142百万円増加したが、繰延税金資産、有形固定資産、長期貸付金等が減少。
- 負債合計は268百万円減少。有利子負債が290百万円減少したこと、未払法人税等が137百万円減少したことが主な要因。
- 純資産は239百万円減少。当期純利益466百万円の計上、オリコンDDの完全子会社化による少数株主持分326百万円の減少、配当金126百万円の支払、自己株式275百万円の取得が主な要因。自己資本比率は42.0%、前期末比5.5ポイント上昇。

連結キャッシュ・フロー



(単位: 百万円)	2011年3月期	2012年3月期	前年同期比 増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	857	1,110	253
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲564	▲48	516
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲452	▲897	▲444
現金及び現金同等物の増減額	▲159	165	325
現金及び現金同等物の期首残高	897	737	▲159
現金及び現金同等物の期末残高	737	903	165

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

2012年3月期において、主な収支は、税金等調整前当期純利益826百万円の計上、減価償却費198百万円の計上、法人税等の支払278百万円等であります。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

2012年3月期において、主な収支は、オリコンDD株式会社株式の取得による支出188百万円、無形固定資産の取得による支出147百万円、有形固定資産の売却による収入173百万円、貸付金の回収による収入130百万円等であります。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

2012年3月期においては、借入金の返済、配当の実施、自己株式の取得によって、資金が減少。

■ キャッシュ・フロー対有利子負債比率が、前期の2.0年から1.3年に短縮

2013年3月期の見通し&株主還元

連結業績予想



●WEB事業

CSランキング連動型広告に「資料請求サービス」「見積りサービス」の機能が加わり、ユーザー一人当たりの広告売上高が増加。収益が拡大する見通し。

●モバイル事業

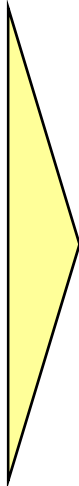
フィーチャーフォン向けサービスが市場全体の縮小の影響を受け、モバイル事業全体では減収となる見通し。その中で、Android携帯電話向け音楽配信は、端末の普及とサービスの拡充に伴って収益を大幅に伸ばす見込み。第3四半期以降、フィーチャーフォン向け着うたフルとAndroid携帯電話向け音楽配信の売上合計額が直前四半期と比べ増加する見通し。

●雑誌事業・データサービス事業

雑誌事業は、「オリ★スタ」の購読売上は伸びる見通しながら、他の雑誌の売上が減少し、全体では横ばいを見込む。データサービス事業は、「ORICON BiZ online」が寄与し、売上は微増を見込む。

●その他の事業

2012年3月期に新規に立ち上げたソーシャルゲーム事業が、タイトル数を増やし、スマートフォンにも対応を開始する予定。増収を見込む。



(単位: 百万円)	2013年3月期 通期連結業績 予想数値	増減率
売上高	6,440	0.5%
営業利益	1,020	7.6%
経常利益	930	6.8%
当期純利益	550	17.8%

※2012年3月期にオリコンDD株式会社を完全子会社化したことによって、2013年3月期には少数株主利益の計上が無くなるため、当期純利益の増加率が経常利益の増加率より大きくなる見込み。

セグメント別売上高の予想値



(単位:百万円)			2012年3月期 [実績]	2013年3月期 [計画]	増減	
					金額	増減率
WEB事業			1,011	1,356	345	34.1%
	広告	CSランキング連動型広告	474	779	305	64.2%
		その他の広告商品	428	519	91	21.3%
	コンテンツ		109	58	▲51	▲46.5%
モバイル事業			3,259	2,539	▲721	▲22.1%
	フィーチャーフォン向け	着メロ	348	227	▲121	▲34.7%
		着うた	358	205	▲153	▲42.8%
		着うたフル	2,289	1,467	▲822	▲35.9%
		情報系	120	133	12	10.2%
	スマートフォン向け音楽配信		131	507	375	286.0%
	その他		12	0	▲12	▲100%
雑誌事業			1,417	1,412	▲6	▲0.4%
データサービス事業			701	723	21	3.0%
その他の事業			19	410	391	—
売上合計			6,408	6,440	31	▲0.5%

※百万円未満を切捨てて表示しております。

配 当

2012年3月期: 今後の資金需要と内部留保等を総合的に判断し、期末配当として1株につき800円の配当を実施。＜配当性向:26.5%＞

2013年3月期: 業績見通し、並びに株主還元の充実と内部留保の確保とを総合的に勘案し、期末配当金を据え置く予定(1株につき800円)。＜配当性向(予想):21.8%＞

自己株式の取得

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能にするため、2012年3月期において、自己株式8,200株(発行済株式総数に対する割合:5.2%)を取得。

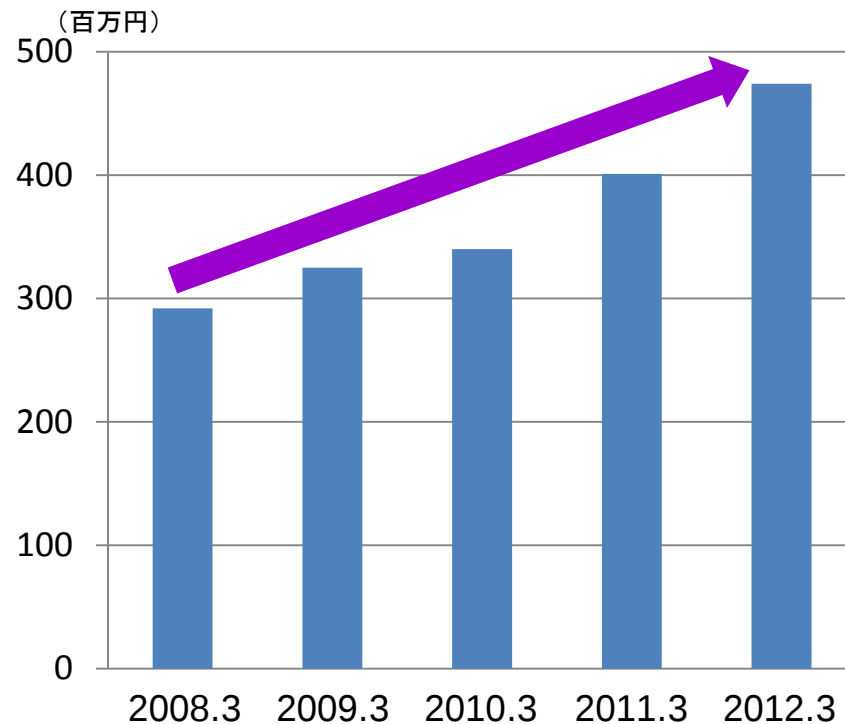
CSランキング連動型広告について

CSランキング① 最近の業績の推移



2006年9月よりPC向け「ORICON STYLE」サイト内でCSランキングの掲載を開始。ランクインした企業のサイトに誘導することを広告商品（クリック課金）として販売。毎年一度、大規模なユーザー調査を行い、ランキングを更新。現在、33ジャンルを運営。安定的に収益を拡大。

CSランキングの売上高の推移



これまでの収益拡大の主な要因

- 二次利用料の徴収
- ジャンルの拡大
- 検索結果の上位表示を獲得

(検索結果の主な事例) 2012年5月1日現在

「自動車保険」 ⇒ 第3位

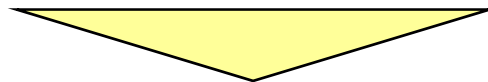
「塾 大学受験」 ⇒ 第2位

「プロバイダ」 ⇒ 第2位

⇒ 検索結果から誘導されてくるユーザーは、目的意識が高く、消費行動に移りやすい特性があり、そのユーザーの比率が上がることで、広告商品としての価値が増大。

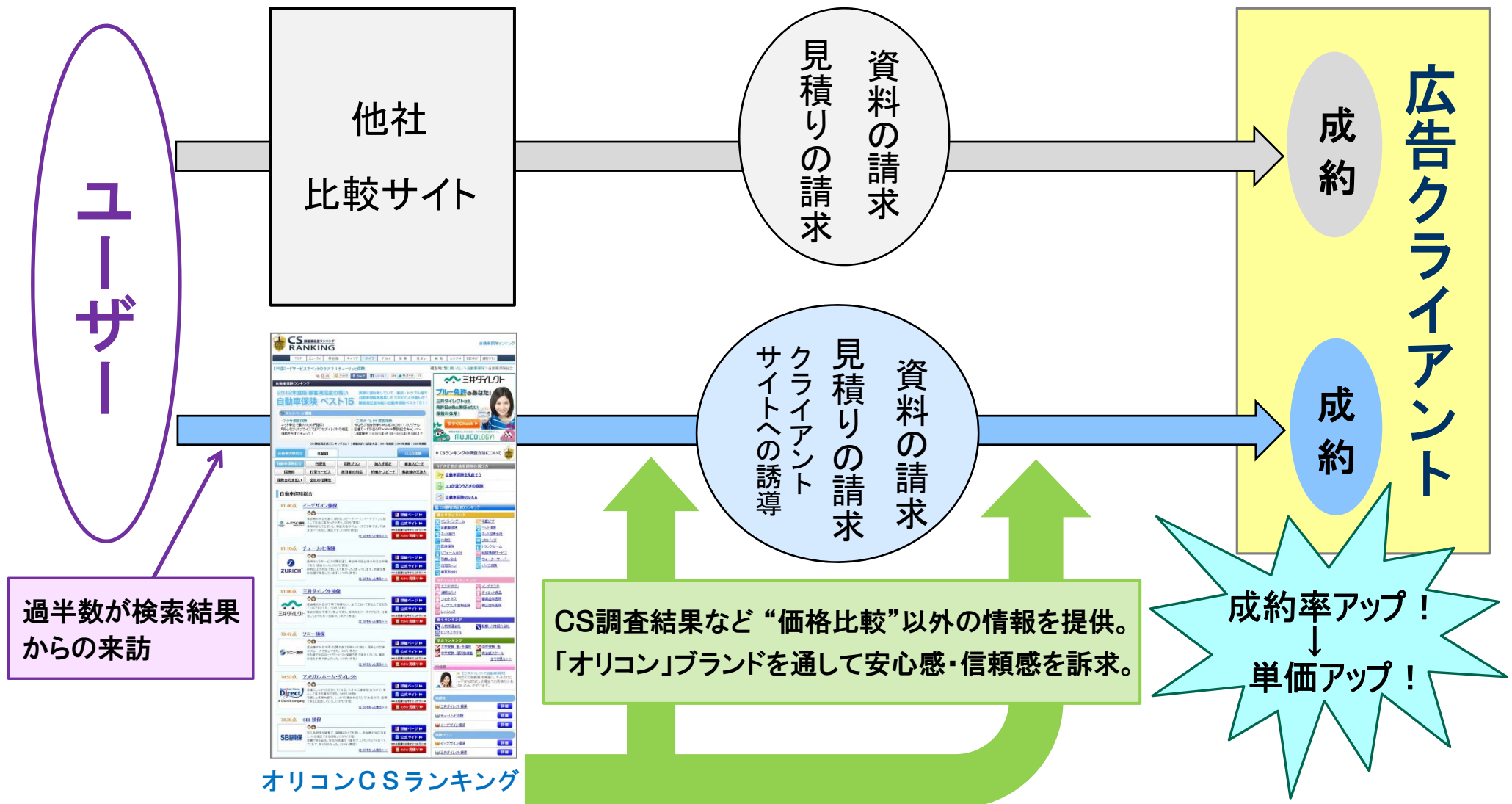
ユーザー一人当たりの広告売上額の最大化を目指し、2012年3月期の下期より、特に以下の点に注力。

- CSランキング掲載ページの広告枠及びコンテンツの再構築
- これまでのクリック課金と二次使用料徴収以外に、「資料請求サービス」及び「見積りサービス」の機能を追加
- 当社グループのニュース配信が、エンタメ分野以外に、CSランキングで対象としているジャンルに関連する分野に拡大してきており、結果として、CSランキング掲載ページの検索結果順位に好影響を及ぼしている可能性があり、引き続き、ニュース配信を強化



2013年3月期のCSランキング連動型広告の売上高は
779百万円(前期比64.2%増)を見込む

CSランキング③ 差別化のポイント



Android携帯電話向け音楽配信について

2012年3月期の実績

- 配信楽曲を拡充
⇒フィーチャーフォン向け着うたフルとほぼ同水準の楽曲ラインナップに
- 対応機種を拡大
⇒一部の外国製端末を除き、全ての機種に対応
- サービスブランドを「オリコンミュージックストア」に変更
⇒ユーザーインターフェースを大幅に改良し、ユーザーの利便性を向上
- アルバムの配信を開始(2012年3月～)
⇒ARPUをアップ
- 外部とのアライアンスを開始
⇒ユーザー獲得導線 & プロモーション効果
⇒第一弾としてTBSのランキングアプリとの連携をスタート

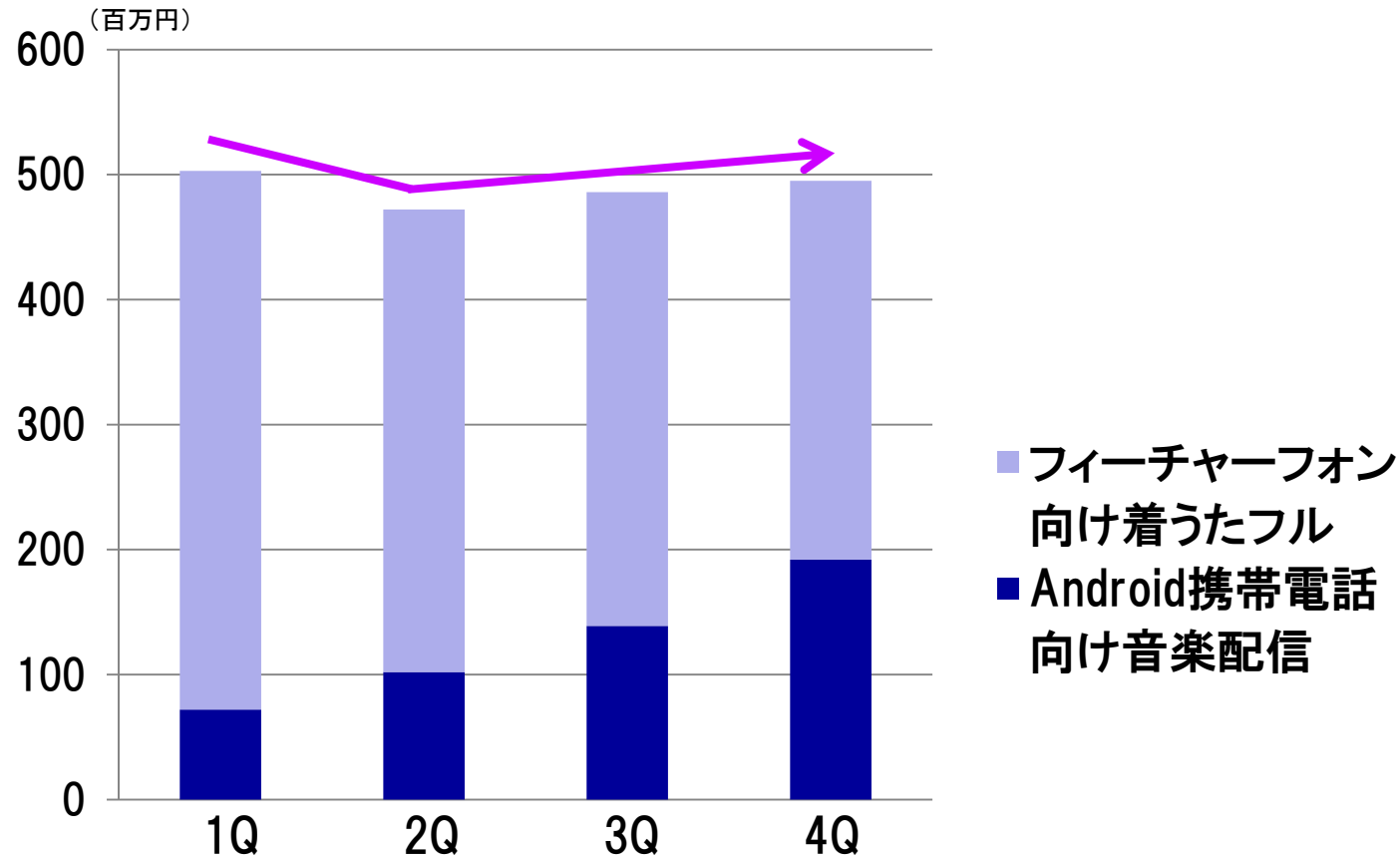
サービスの提供基盤を整備・拡充



Android携帯電話向け音楽配信②



2013年3月期の見通し



フィーチャーフォン向け着うたフルとAndroid携帯電話向け音楽配信との売上高の合計が、第2四半期までは直前四半期と比べて減少するが、第3四半期以降は増加に転じる見込み。
なお、Android携帯電話向け音楽配信の売上の前提は、現在展開しているダウンロード型のサービスに限定。

強化すべきポイント

●サービスの多様化

⇒ダウンロード型以外に定額性のストリーミングサービスなど、ユーザーニーズがあり、レコード会社各社が許諾するサービスについては、積極的に導入を検討

●顧客(会員)を有している企業とのアライアンス

⇒アフィリエイトモデル等での協業を推進

⇒当社グループの持つデータ、ニュースコンテンツなどを活用

⇒会員獲得導線として有用

●ソーシャルメディアの活用

●コンテンツ&機能の継続的な拡充

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後の様々な要因により大きく異なる可能性があります。

※ Androidは、Google Inc. の商標または登録商標です。

※ 着うた、着うたフルは、株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。

※ その他記載されている製品名、サービス名などは、該当する各社の商標または登録商標です。

オリコン株式会社

IR用ホームページ

<http://www.oricon.jp/>